

以下の箇所に誤りがございました。訂正するとともに深くお詫び申し上げます。

(株)緑書房

表の見方は以下のとおりです。

p. : 掲載ページ、上 : 上から数えた行数、下 : 下から数えた行数。

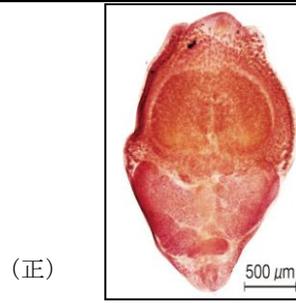
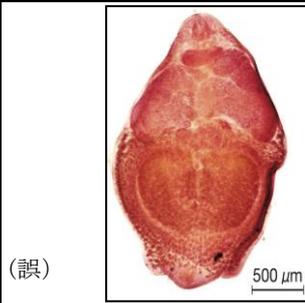
修正・訂正箇所	誤	正
目次		
p. 6 右下9行目	(1) 牛の大型ピロプラズマ	(1) 牛の大型のピロプラズマ
p. 7 右上1行目	5-2. 線虫各論 I (有ファスミッド亜綱)	5-2. 線虫各論 I (有ファスミッド亜綱)
第1章		
p. 12 上2行目	寄生虫が宿主に感染後、生殖能力を獲得するまで発育し、虫卵や幼虫などの次世代産生を開始するまでの期間をプレパテントペリオド、これらを産生し続ける期間をパテントペリオドという。	寄生虫の検査においては、検査材料に検査対象物(虫卵や幼虫など)が検出されるまでの期間をプレパテントペリオド、検査対象物が検出されてから検出されなくなるまでの期間をパテントペリオドと定義する。それを寄生虫の生活環にあてはめると、プレパテントペリオドは寄生虫が宿主に感染後、生殖能力を獲得するまで発育し次世代の虫卵や幼虫などが出現するまでの期間、パテントペリオドは次世代を産生し続ける期間にあたり、それらの長さはほぼ一致する。
第2章		
p. 51 学習のポイント・キーワード	小型ピロプラズマ、シズント、…	小型のピロプラズマ、シズント、…
p. 51 下15行目	タイレリア科、 <i>Theileria</i> 属に属する小型ピロプラズマ原虫(<i>Theileria orientalis</i> , <i>Theileria annulata</i> および <i>Theileria parva</i>)で、…	タイレリア科、 <i>Theileria</i> 属に属する小型のピロプラズマ原虫(<i>Theileria orientalis</i> [小型ピロプラズマ]、 <i>Theileria annulata</i> および <i>Theileria parva</i>)で、…
p. 54 学習のポイント・キーワード	大型ピロプラズマ、マダニ、…	大型のピロプラズマ、マダニ、…
p. 55 上1行目	(1) 牛の大型ピロプラズマ	(1) 牛の大型のピロプラズマ
p. 55 上3行目	<i>Babesia ovata</i> , <i>Babesia bigemina</i> および <i>Babesia bovis</i> が牛の大型ピロプラズマである。牛、水牛、…	<i>Babesia ovata</i> (大型ピロプラズマ)、 <i>Babesia bigemina</i> および <i>Babesia bovis</i> が牛の大型のピロプラズマである。牛、水牛、…
第3章		
p. 77 図3-25A		写真を180°回転(次頁参照)
第5章		
p. 116 上1行目	5-2. 線虫各論 I (有ファスミッド亜綱)	5-2. 線虫各論 I (有ファスミッド亜綱)
p. 116 一般目標	有ファスミッド亜綱の線虫の重要種について、…	有ファスミッド亜綱の線虫の重要種について、…
p. 131 上2行目	経皮感染したフィラリア型第3期幼虫(FL3)は、気管型移行(「犬鉤虫」の項参照)で消化管に達し、…	経皮感染したフィラリア型第3期幼虫(FL3)は、肺内で毛細血管を突破して肺組織内でフィラリア型第4期幼虫(FL4)になる。そして、気管型移行(「犬鉤虫」の項参照)で消化管に達し、…
p. 131 図5-24	肺内の第3期幼虫(L3)がそのまま腸管まで移行している描写	肺内において、第3期幼虫(L3)が第4期幼虫(L4)になり、L4の状態では消化管に移行するという描写(次頁参照)
p. 132 下11行目	経皮感染したフィラリア型第3期幼虫(FL3)は、気管型移行により消化管に達し、…	経皮感染したフィラリア型第3期幼虫(FL3)は、前項「糞線虫」と同様に気管型移行により消化管に達し、…
p. 133 図5-25	肺内の第3期幼虫(L3)がそのまま腸管まで移行している描写	肺内において、第3期幼虫(L3)が第4期幼虫(L4)になり、L4の状態では消化管に移行するという描写(次頁参照)
p. 150 下5行目	卵胎性で、雄成虫は無鞘のミクロフィラリア(約300 μ m)を…	卵胎性で、雌成虫は無鞘のミクロフィラリア(約300 μ m)を…
p. 151 下14行目	大動脈症候群(vena cava syndrome)	大静脈症候群(vena cava syndrome)
p. 151 下13行目	急性犬糸状虫症や大動脈塞栓症ともいわれる。発症前の…	急性犬糸状虫症や大静脈塞栓症ともいわれる。発症前の…
第7章		
p. 199 上20行目	線虫卵や条虫卵(およびオーシスト)は比重が1.2未満であり浮遊液に混入すると浮遊するため、比重1.2以上の糞便成分と分離できる。ただし、吸虫卵は比重が1.2以上あるため、一般的な浮遊液では浮遊しない。	線虫卵(やオーシスト)は比重が1.2未満であり浮遊液に混入すると浮遊するため、比重1.2以上の糞便成分と分離できる。ただし、吸虫卵や裂頭条虫卵の多くは比重が1.2以上あるため、一般的な浮遊液では浮遊しない。
p. 200 表7-1「適用」の欄	線虫卵、条虫卵、オーシスト(吸虫卵には不向き)	線虫卵、オーシスト(吸虫卵、条虫卵の一部には不向き)

以下の箇所に誤りがございました。訂正するとともに深くお詫び申し上げます。

榎緑書房

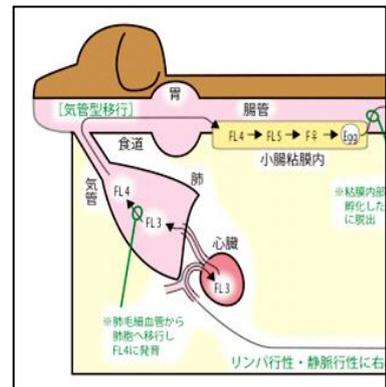
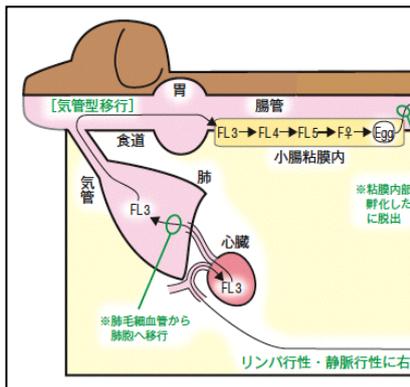
第3章

p. 77 図3-25A



第5章

p. 131 図5-24
図左側



p. 133 図5-25
図左側

